

45年の年月を経て、思い出すのは・・・。

臼 杵 優（教育・昭和57年卒）

香川大学教育学部を卒業して、はや45年。地理学研究室（以下、地理研）での4年間には、たくさんの思い出が詰まっている。

私が観音寺市立柞田小学校を最後に定年退職して、今年で7年目を迎えた。半世紀近く前の大学生生活を思い起こすと、数々の思い出がある。当時は、一言で言うと、とにかく自由な学生生活を送っていたように思う。今の学生はどんなのだろうか。当時の地理研は、4学年合わせて40人程で、同級生は入学時8人、卒業時には9人だったが、非常にアットホームだった。サークル活動に参加していなかった私にとって、地理研が大学生生活のほぼ毎日の居場所であった。講義の時間以外に研究室でいると、必ずといっていいほど誰かがやって来て、楽しい時間を過ごしていたように思う。

地理研ならではの思い出として、特に「巡検」と「合宿」が印象に残っている。

「巡検」では、県内外の各所を訪れた。小巡検では、瀬戸内海の島々を、日帰りやテントを担いで泊まりながら回ったことが懐かしい。また、大巡検では、北陸方面へ行き、日本海で遊泳中、眼鏡を波にさらわれたことや、能登半島の沖合にある舳倉島へ行ったことなども懐かしい。巡検の経験は、3年時の九州10日間一人旅や4年時の卒業旅行としての沖縄男二人旅にもつながっている。また、「合宿」とは、当時は毎年、3年生が県内市町で研究活動を行い、数日間、その市町内に宿泊して調査や研究をするものであった。1・2年生時は3年生の手伝い、3年生時は自分の研究として参加した。

地理研では、「巡検」や「合宿」等を通して、異学年で取り組み、人間関係を深める貴重な経験ができた。そして、地理研の結束がより深まったと思う。もちろん、先輩・後輩、先生方に恵まれていたからであることは言うまでもない。

大学卒業後、教員となってからは、研修や出張で高松へ来た時などに大学の横を通ることはあったが、大学構内まで入ることはなかった。私が学級担任を務めたのは、教職前半の22年間で、ほとんどが高学年担任だった。自分の足で教材研究を進め、子どもたちと密に関わりながら学習を進める姿勢や、修学旅行や宿泊学習などの引率、その他学校行事の運営などに、大学時代の地理研での経験が非常に役立ったように思う。

教職後半は、指導主事や管理職として勤めたが、退職の年はコロナが広がり始めた年だった。3月からは全国一斉に学校閉鎖となり、校長として先の見えない1ヶ月間の学校経営に携わったことも思い出深い。

退職後は、昨年までの6年間、三豊市子育て支援課でお世話になった。学校を外の立場から見ていると、学校現場は大きく変わっていることに気付かされる毎日だった。社会、教育現場とも大きな転換期を迎えている今日ではあるが、これからも温かく子どもたちを見守っていきたいと思っている。